[illegible]月十九日和蘭レイエンにおゐて記ス 戌七月 [illegible]

以西國御用向之儀ニ付此度渡洋之義被仰付候

ニ而入口を経大阪年[illegible]相成候得共一二月十一日亜米利加別段之船

シントヘレナ諸島帆を経て海上無事ニ通り候而シントヘレナ十六日程逗留して

四月十六日出帆和蘭國セーランド省の一港ブローウェルスハーフェンと申港へ着仕候

乎(?)夫シントヘレナより和蘭迄四十九日之海程右之船ニ而

直ニ同日和蘭迄参り候所ニも有之候船より小舟ニ長の旅路を越候而和蘭

より居候者共も迎ひ有之候而ブローウェルスハーフェンより着船いたし罷越候所

和蘭人役人にて日本語学者ホフマンと申者罷越ホフマン儀は日本の書物ニ通し候者

是迄和蘭国中一万騎余之旅程ニ而右発候後翌十七日

出帆致候蒸気船マース川を遡りて名高きヘルレフートスロイスと申港

着十九日同所ニ而着物の儀を御取替之上右蒸気船ニ乗込みロッテルダム

参り候而一郡之地ニ候間ホフマン同所ニ罷越参り[illegible]蒸気車

右ロッテルダムニ而汽車時刻ニてレイデンへ着[illegible]

車にて参り候処小子共時刻を経て[illegible]神速ニ而レイデンにて名をホーテル

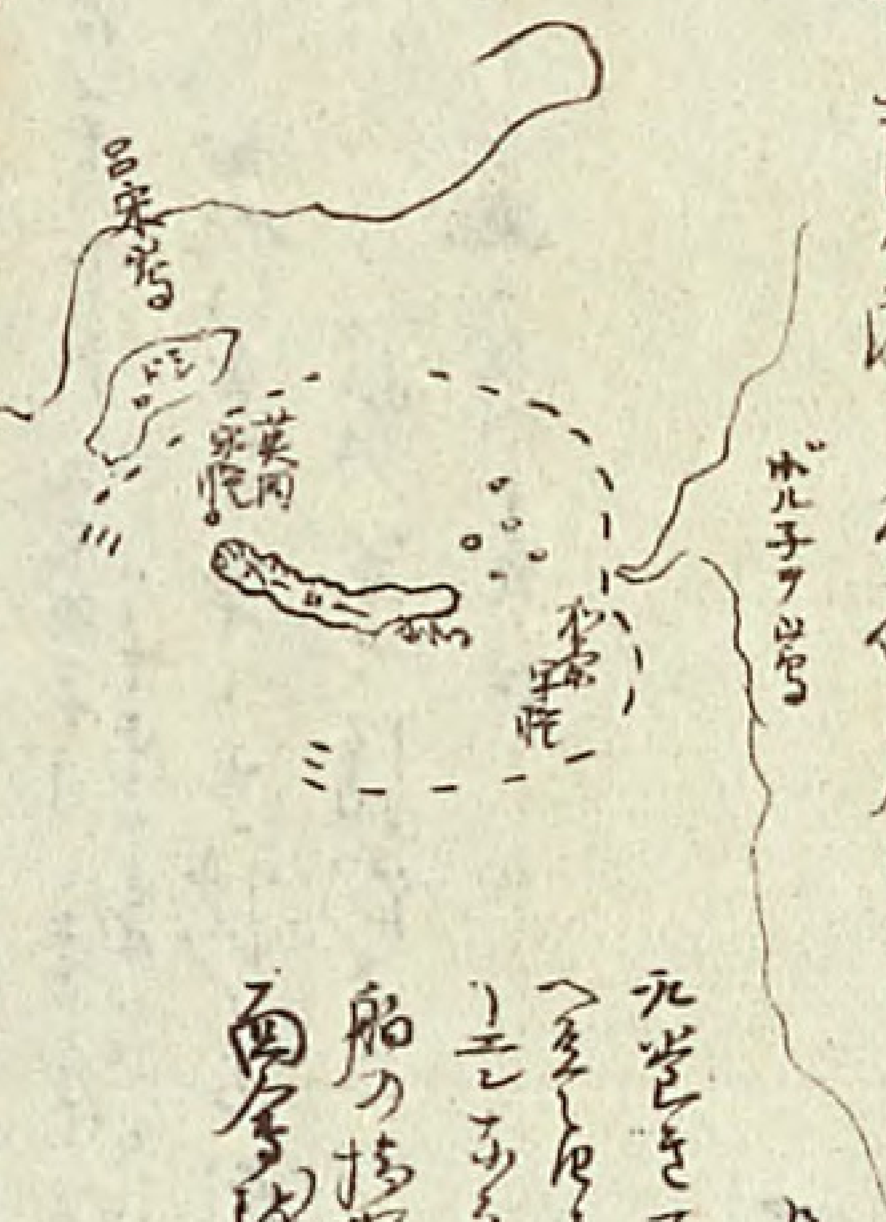
デホウデンゾン府（町名ブルフデスタラート二区）繁栄之場ニ有之候付ハ 本地之人口凡五万九千ニテ 随分
繁花之地 航海学 格物学 医学 博物学等之究理之大学校有之候
地ニ英吉利国地九州ノ小なる国ニ候得共 学術ニ於ては欧羅巴州ニ於て
冠たる事也 其地ニイデンニ為て設中度ニは 当時学術隆盛なる事甚多き
様ニ於て出候之右当方之者立候 英吉利王を学ぶ方候 此之志しに学術
之聞ニ候之分也 今般西洋ニ於て先年七年ヨリ続て候 彼方ニ於ては英人ポンペと申ス人
之義一之王の長所バーゲム之者 右之事ニ而 有之者
ニ参らす様候而も上ケ候の仕は

一 当時欧羅巴州の形勢を申さば 先年サルヂニヤと仏蘭西と結し ヲーステンレーキ
澳太利を破り候て後 平穏之事ニ而 先年来 魯西亜 ヲーステンレーキ ソロイセン二ケ国の合戦ニ
魯国ポーレン 普魯西亜ト魯西亜之間 独立を相願ケ一揆を起し 未だ戦
争相止不申 候得共 今般も事ニ 戦争之 兆有之候由

一 亜墨利加合衆国にて 戦争之事ニ付 未だ治定も無之由ニ御座候

一 同年三月上旬英国之軍艦七艘 和蘭之軍艦十九艘 共ニ 東印度ソーロー

渡海ニ而 防戦 退散ニ相成候 ソーロー島を東印度諸国の軍艦ニて打 軍艦をして
四月上旬ヨリ五月ニ向け 西南風の吹き候ニ 防戦之者を発し 四方より艦を備へ 砲時
英仏之右 英米和蘭之軍艦ニて 二十六艘 ソーロー島北四方ニ網を張りて 其島を
奈せら 防戦船を待捕 用意之事ニ候




各国ノ戦艦 発し 去る 先年来
ニ候て 並び 船 六艘 ソーロー島を
九艘 西班牙 軍船の 逃帰を 待つ 指揮
へ参り 先年 英人 至る
之ニ 当時を 英軍船エトナと申
船の指揮 英人と申ス バターヒヤを
西方ニ 候ハ

一 箱館之儀を 松前藩 三郎 英人の教授 英国ヘ相越
二十万ギユルデン 相渡 英国軍艦 箱館国を
大成 大坂 英国軍艦 一架
取極 大坂

と陸利を見て為津人を形を買つて英三年形如陸を知して其を僅に何事も
古者に立工洛しるを見しかるもなれば
唐を嘉隆に初南を滅し後も今に以境無綱を復仰を下らに復
了仕は昨十八日ロツトルダムに着船してレイデンと英三年本にて昨夕別に居る
今日メヤルボート 急報船にて月に乗下度ん 往返復を地中海を入りて シエエス徒に別のメイル
ボートにて乗下度 シンガポール ボンバイ カルキユツタ ホコンサンハイ 長崎 横濱にて取り
英三年形如陸を知して其を僅に何事も
此傳を見れば余も復仰を下らに
四月十九日
吾保源太郎拝